

月 日	行 程	詳 細
7月28日(土)	関空集合 関空出発 香港空港着 バスで市内観光 香港空港出発	<p>定刻に集合完了。搭乗して無事出発した。</p> <p>キャセイパシフィック航空は機内も快適でエンターテインメント設備も整っており、生徒は映画などを見て過ごしたようだった。機内で朝食兼昼食を食べる。香港国際空港到着後、順調に入国審査を終え、ガイドのスティーンさんと合流する。バスで市内を案内してもらい、黄大仙廟を訪れ、お参りと占い師街を観光した。その後、香港は日差しがきつく、外に長時間いるのは厳しいため、近くのショッピングモールで休憩し、バスでネイザンロードを通りながら、市内観光をして空港へ戻った。</p> <p>ガイドと運転手にお礼を伝えたあと、チェックインを済ませる。出発前に生徒1名が携帯電話をどこかの店舗のカウンターに忘れるというアクシデントがあったが、無事に見つかり、定刻通りに出発。機内で夕食を食べた後、就寝した。</p>
7月29日(日)	アデレード着 市内観光 マウントガンビア高校 ホームステイ	<p>午前4時半頃、機内で朝食を食べる。寝ていたため、起こされず、朝食を食べていない生徒がいた。午前5時15分、アデレード空港に到着した。入国手続きはパスポートを機械に通して自分で行うシステムに誘導されたが、生徒数名のパスポートがエラーで受け付けてもらえず、有人のカウンターに行き、処理をした。原因は不明。その後、ガイドの荒井さんと合流し、朝食を食べるためにホテルへ向かった。到着時間が早いため、朝食がとれる時間まで、バスで市内を巡回したが、生徒の多くが疲れており、バスの中でも寝ている生徒が多かった。ホテルに到着後、朝食を（再度）食べ、アデレード市内観光に向かう。</p> <p>聖ピータース教会、ライツ展望台、ノーステラスなどで写真撮影などをした後、グレネルグビーチに移動した。ビーチは冬のため、とても寒かったが、海岸を犬と散歩する現地の人と交流することなどができた。その後、マウントガンビアへ移動する前に、野生のコアラが生息している地帯がある、というガイドの話聞き、コアラを探しながらアデレードを一望できる高台（マウント・ロフティ）を目指した。道中で生徒1名がコアラを発見し、その声に反応できた数人はコアラを見ることができた。休憩所でもコアラを探すが発見できず、残りのメンバーにとっては、後の楽しみに、ということになった。</p> <p>10時30分頃にアデレードを出発し、13時にキースという町でトイレ休憩、および昼食をとる。その後、1度トイレ休憩をはさみ、16時30分ごろにマウントガンビア高校に到着した。ホストファミリーと落ち合うまで1時間あったので、ガイドの判断で、近くのCave（縦型の洞窟）に移動して時間を潰す。そこで</p>

		<p>はポッサムを発見し、エサをあげたり撫でたりして、生徒は喜んでいた。</p> <p>17時30分、ホストファミリーと合流し、記念撮影。その後、各自、ホストファミリー宅へ移動した。教員は、秋田先生（姉妹校の日本語の先生）の家に移動した。</p>
7月30日(月)	学校登校	<p>朝、生徒が日本語教室に集まってきた。体調チェックでは誰も問題なかった。</p> <p>朝1時間目から日本語クラスの授業であった。Grade 8（日本の中2）の生徒の授業で、まだマウントガンビアの生徒は日本語が使えないため、日本人の生徒に、趣味や日本のことなどを聞き、それをクラス全体でシェアする、という内容だった。最初は緊張しており、まったく笑顔を見ることができず、コミュニケーションも円滑に進んでいるとは言えなかったが、上本より、笑顔を見せること、質問に使える英語表現などを指導し、recess（中休み）を過ぎたあたりから、緊張も取れ、表情もほぐれ、慣れない英語ながらもコミュニケーションをとることができるようになってきた。</p> <p>9・10年生の授業では、英語で質問に答えるだけでなく、マウントガンビアの生徒に日本語を教えるために、日本語で答えたりする活動も行った。</p> <p>5時間目の日本語授業終了後、各生徒は、それぞれのホストとともに、授業に向かった。自習のクラスもあったようで、2時間ぼーっと過ごした生徒もいたようだ。終礼などはないため、7時間目終了後、それぞれ帰宅していった。</p>
7月31日(火)	学校登校 市長訪問	<p>朝の体調チェックでは、集合できた生徒は問題なし。生徒2名が現れなかった。秋田先生によると、おそらくホストシスターがそのままホームルームクラスに向かっただろうとのこと。全員に市長訪問や今後の予定を伝えて解散した。ホームルーム終了後、残りの生徒にも会うことができた。</p> <p>1・2限はそれぞれの授業に参加、その後、日本語授業に参加した。本日の日本語の授業は、マウントガンビア高校生が受ける評価テストの日本語チェックをするものだった。授業後、それぞれの生徒がホストについて4時間目を受けた。</p> <p>昼休みが終わり、市長訪問を行った。イタリアからも10名の学生が留学してきており、その10名と一緒に市の中心にある市庁舎に徒歩で向かった。市庁舎では、Andrew Lee 市長に歓迎され、アフタヌーンティーをごちそうになり、市議会議所で記念撮影を行った。生徒代表のスピーチはしっかりとしたものであった。思ったよりも時間がかかったため、ホストファミリーとの集合時間に遅れるトラブルがあったが、何とか全ての生徒がホストと合流し、帰宅することができた。</p> <p>解散後、秋田先生より、職員会議に出席するかと誘われたので、</p>

		<p>後学のために出席させていただいた。大きな会議室で40分程度のミーティングの後、ホームグループと言われる学年会議のようなものが40分程度開かれていた。平日は授業を終えると、基本的に15時30分には職員は帰宅するが、火曜日は会議があり、17時ごろまでの勤務になっていた。共有すべき資料がスクリーンに提示されるなど会議は効率よくすすめられていた。議事はくつろいだ雰囲気の中ですすみ、質疑応答も適宜おこなわれ、職員の参加意識は高いように見受けられた。ONとOFFのメリハリが、意外に日本よりもはっきりしている印象を受けた。</p>
8月1日(水)	<p>学校登校 プレゼンテーション</p>	<p>朝の体調チェックは問題なし。用意してきていたアンケートを各自が分担して、各ホームルーム教室で実施した。英語でアンケートの趣旨を自分で説明して実施するように指示したが、なんとかできていたようだ。</p> <p>その後、1時間目からそれぞれの授業に向かった。私、上本は秋田先生の教える数学の授業(中2年生)を見学した。比率の授業であったが、掛け算や割り算の計算に躓いている生徒が多い印象だった。立ち歩いたり、話をしたりする生徒も多かったが、ひどい場合は席を移動したり、特別授業のクラスに移動させていたりしていた。</p> <p>3時間目と4時間目は、準備してきていたプレゼンテーションを行った。原稿自体はほぼ覚えてきていたが、日本語でのプレゼンテーションにも十分には慣れていない生徒達なので、聴衆と視線を合わせるのが難しかった。しかし、質疑応答では、オーストラリアの生徒が積極的に挙手して質問してくれたので、和やかな雰囲気で終えることができた。その後、オーストラリアの生徒が持参した現地のお菓子をいただいた。</p> <p>昼休みには、1年生の男子2名が、ダンスの授業を選択している生徒からダンスホールでダンスバトルをしないかと誘われていたため、見学しに行った。会場には50人以上のマウントガンビア高校生が集まっており、ダンス教員の指示で交互にダンスを披露した。日本人二人のダンスのレベルが高く、ダンスが終わった後は大きな拍手が沸き起こっていた。ダンスなど、身体で表現できるコミュニケーション手段があれば、言葉の壁を乗り越える非常に有効な手段に成り得るのだと体感できた。ダンスホールは、音響装置など本格的な設備が整っている。同じ校舎には、防音設備が整えられた教室がいくつもあり、楽器の練習に励む生徒がいた。また、技術の授業をおこなう教室には、大型の旋盤やボール盤が複数台設置されるなど職業高校に匹敵する設備であった。普通科目以外の選択科目は全体的に日本よりも充実していると感じた。</p> <p>放課後、秋田先生がネットボールとサッカーの試合に参加するということで見学しに行った。立て続けに二つの会場を移動して、</p>

		平日の夕方に試合をするなど、ここでも日本との大きな違いを感じた。
8月2日(木)	学校登校 遠足	<p>この日は朝からマウントガンビア市周辺を散策する遠足にでかけた。体調不良者もなく、連日雨の天気だったが、幸いにも一日中晴れており、天候に恵まれた。</p> <p>イタリアの生徒とともに9時に学校を出発して、マウントガンビア市を一望できる近くの山に登った。真冬だったが、なぜか道中では日本とよく似た桜が咲いていた。マウントガンビア市の代表的な観光名所である <b>Blue Lake</b> まで行き、そこで現地のガイドに説明をしてもらいながら、<b>Blue Lake</b> の歴史や、水が生活用水に利用されていることなどを教えてもらった。かなりスピードのある英語で訛りも強く、日本人の生徒にとっては理解困難であった。</p> <p>その後、街の中心地に移動し、昼食をとった。その後、イタリアの生徒とともに、ボーリングを楽しんだ。ボーリングが初めてという生徒もいたが、ホスト、日本人、イタリア人で仲良くゲームができていたように見えた。優勝は秋田先生と1年生男子のチームで、景品にお菓子をいただいた。</p> <p>学校まで徒歩で戻り、荷物を少しずつ整理しておくことを伝えて解散した。</p>
8月3日(金)	学校登校	<p>朝の体調チェックは問題なし。この日は1時間目に日本文化を日本語選択者に教える授業だった。秋田先生の持参した習字道具、箸、折り紙、浴衣を、日本人の生徒がそれぞれ2～3人ずつ補助につき、マウントガンビアの生徒に体験してもらった。書道は、日本人の生徒がマウントガンビア生の名前のお手本を作成し、それを真似して書いてもらった。折り紙や浴衣の着付けも、それぞれが役割を分担して、現地の生徒には大変喜んでもらった。</p> <p>その後、各選択授業に移動した。ダンスの授業では、1年生男子と2年生女子が参加し、現地の高校生にダンスの指導をしていた。そのまま昼休みになり、ダンス教師の指導でダンスの交流会となった。ダンスのできる生徒以外にも全員がダンスホールに集合し、マウントガンビア高校生100名ほどと一緒に、ダンスのパフォーマンスを楽しんだ。</p> <p>6時間目にもう一度日本語の授業クラスで日本文化体験の授業を実施し、7時間目はホストシスターとともに、最後の授業を受けて解散した。</p> <p>空き時間に、私は <b>ESL</b> (英語が母語話者でない人に英語を教える) の授業を参観した。オーストラリアには、東南アジアや中東から難民としてやってきた人も多く、マウントガンビア高校には、そうした全く英語ができない人に英語を教える授業がある。参観した授業は20歳ほどの学生が8人ほどのクラスで、英語の複数形の作り方を学んでいた。そういった生徒が、就職して自立して</p>

		生活できる能力を身につけさせることも高校の役割として存在していることに感銘を受けた。なお、ESLの授業は「英語」だけではない。数学の授業では、分数の理解を促すために映像教材が活用されていた。教師二人がティーム・ティーチングで授業をおこない、全体と個のバランスを取りながら、生徒の理解度に応じて柔軟に指導をしていた。
8月4日(土) 8月5日(日)	週末	<p>ホストファミリーと過ごす。</p> <p>日曜の夜8時ごろ、秋田先生の携帯電話に、ホストファミリーの生徒から、生徒1名が足首を捻挫したという連絡が入った。様子を聞くと、なんとか歩ける、ということだったので、とりあえず翌日学校で様子を確認し、移動が難しいようであれば、バスツアーの際にバスに残るなどの対策をとることを話し合った。</p>
8月6日(月)	鍾乳洞遠足 お別れディナー	<p>朝の体調チェックは問題なし。捻挫した生徒の足は、少し痛むようだったが、長距離の徒歩移動はないということで、本人が判断して、休み休みで移動することにした。</p> <p>9時にバスで、イタリアの生徒と一緒に鍾乳洞のある Princess Margaret Caves に向けて出発した。到着後、ツアーの開始時間まで余裕があったため、付近を散策し、大きな川を見学した。その後、ツアーガイドから解説を受けて、内部を見学した。思ったよりも大規模な鍾乳洞で、ガイドの英語を秋田先生に解説してもらいながら、生徒は興味深く観察していた。</p> <p>11時半ごろ、ツアーが終了し、学校に戻ることになった。秋田先生は、他にもいくつか見学する場所があると思っていたようだが、イタリア語のエロイーザ先生によると、午後から学校のバスを使用する団体があるので、学校に戻らなければならないということだった。</p> <p>12時半ごろに学校に到着し、食堂で食事をとった後、日本語クラスの授業に交じって、活動を手伝った。</p> <p>6・7時間目は、秋田先生から指示をいただき、この日のホストファミリーとの最後の夕食で話すスピーチを考えたり、秋田先生がオーストラリアに来たきっかけや、今に至るまでのお話を聞かせてもらった。秋田先生は中学卒業後にすぐにオーストラリアに来て、オーストラリアの高校で学び、さらに大学に進学しており、その話を生徒は非常に興味深く聞いていた。高校卒業後の海外留学へのモチベーションが高まった生徒もいたようだった。</p> <p>その後、一旦生徒はホストと帰宅し、6時に食事会に再集合することとなった。</p> <p>The Eastern というレストランで、西高生、ホスト、及びその家族、総勢55名で食事会を行った。1時間程度、各家庭グループで会話を楽しみながら食事をした後、西高生一人ひとりがホスト家族の前で英語でスピーチをした。涙を流す生徒、家族もあり、暖かな雰囲気ですべてを終えた。全員で記念撮影し、解散した。</p>

		<p>いくつかのホスト家族から、「本当によい子たちだった」というお褒めの言葉をいただいた。皆、礼儀正しく、愛嬌があり、ホストファミリーと良い関係を築けていたとのことだった。</p>
8月7日(火)	<p>マウントガンビア出発 メルボルン市内観光</p>	<p>朝、生徒は8時50分に空港に集合した。預け入れ荷物についてはしっかり連絡をしていたので、ほぼ問題なくチェックインできた。9時35分の出発時間まで、残りの時間をホストファミリーと会話して過ごした。別れが近づくと、男子生徒含め、皆が涙を流して別れを惜しんでいた。飛行機は定刻に離陸し、1時間程度でメルボルンに到着した。小型機のため、到着前にかかなりの揺れがあったが、気分が悪くなった生徒はいなかった。荷物受け取り場所でガイドのTakaeさんと合流し、バスで市内観光に向かった。</p> <p>まず、イタリアンレストランに向い、ランチを食べた。アレルギーのある生徒にも丁寧に対応していただけた。その後、世界遺産である王立展示館を訪れて写真を撮った。再度バスに乗り、町を散策して、聖パトリック大聖堂やキャプテンクックの生家などを訪れた。予定の旅程を終えたが、まだ時間に余裕があったので、ガイドと引率教員で相談して、ビクトリア州立図書館(State Library Victoria)と有名な商店街を見学しに行った。図書館は巨大で美しく、生徒はとても感動していたので、次年度も余裕があれば向かうことを薦める。ただし、建物の内部構造がやや複雑であるので、集合場所の確認は念入りにしておきたい。</p> <p>その後、Tram(路面電車)に乗ってホテルに移動した。ホテルにチェックインしてから、ディナー時間まで時間があつたので、2時間程度の自由行動時間をとった。その際、単独行動はしないこと、何かあればすぐに連絡することを伝えた。6時25分にレストラン前に集合し、夕食をとった。7時半頃、メルボルンに在住のメナカの父親が訪れ、会話と記念撮影を行った。生徒に6時にモーニングコールがあること、6時半に朝食をとることを伝えて就寝した。</p>
8月8日(水)	<p>グレートオーシャンロードツアー メルボルン出発</p>	<p>朝、予定通り6時半より食事をして、8時にTakaeさんと再度合流して、バスでグレートオーシャンロードツアーに出発した。</p> <p>アングルーシーで休憩した際に、コアラと多数の野鳥を見ることができ、生徒は喜んでいて、道が曲がりくねっているため、バス酔いの注意があつたが、気分が悪くなった生徒はいなかった。アポロベイという町のホテルで昼食のフィッシュ&amp;チップスを食べて、買い物等の自由時間をとった。その後、12使徒奇岩群を見学しに行った。浸食によって作られた景色は絶景で、ここでは生徒が一番驚いていた様子だった。すぐ近くのロックアード溪谷でまた自由時間を取った後、バスでメルボルンに向かった。途中、コーラックという町で休憩時間をとった。</p> <p>19時半ごろに空港に到着し、ガイドさんに別れを告げ、国際</p>

		<p>線ゲートを抜けたところで、食事およびお土産を購入する時間を取った。23時にいったん集合し、今回の留学のフィードバックを引率教員より行った。23時40分に飛行機でメルボルンを出発した。香港での乗り換えは、乗り換え時間が短く、窓口が混雑していたため、慌ただしいものであった。オーストラリアからの到着時間が遅れたときは（考慮はなされるのであろうが）、どうなるのであろうか。</p>
8月9日（木）	香港着 香港発 関空着	<p>定刻より少し早く到着し、入国審査等も順調にすすみ、予定より30分ほど早く出国ゲートをでた。保護者の方々や校長の迎えを受け、生徒は解散した。</p>